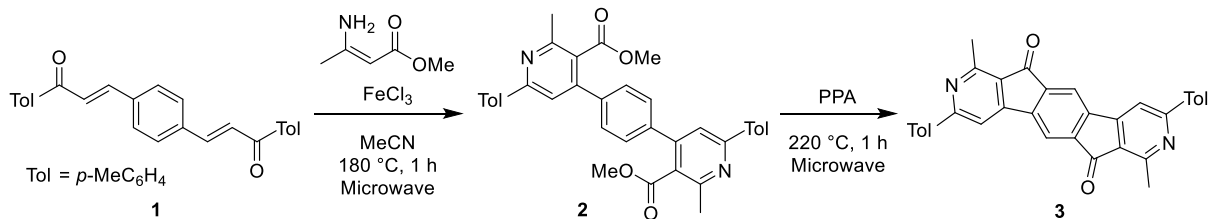


3環性のアザフルオレノン骨格は、特徴的な光学物性を示す。また、求核性や配位性の環窒素を活かした物性制御が可能であることから、新規な機能性材料への応用が期待される。両末端に2つの配位部位を持つアザフルオレノンが入手できれば、分子間相互作用を介した新たな骨格構築が可能になる。そのような背景の下、当研究室で開発した手法¹⁾を用い、ビスエノン**1**に対して塩化鉄の共存下でエナミノエステルを作用させたところ、ターフェニル型のニコチン酸エステル**2**を32%の収率で得た。次いで、ポリリン酸中で加熱することにより、分子内Friedel-Craftsアシル化が進行し、2つのアザフルオレノン骨格を有する5環性化合物**3**の合成に成功した。



1) *Chem. Commun.*, **2017**, 53, 2390–2393.